

新十津川町立新十津川中学校

全校生徒数：161名 実施学年：第1学年

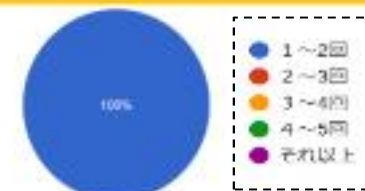
端末持ち帰りモデル

デバイス : iPad
OS : iPadOS
学習eポータル : 実証用学習eポータル
アプリ : eライブラリ

取組の方法

各教科週あたりのeライブラリ使用頻度

今年度の全体研修は、主体的・対話的で深い学びに向けたICTの活用について、教師1人1授業を行うことで研究を深めている。タブレット端末の活用状況については、右表の通りである。なお、生徒は毎日タブレット端末を持ち帰ることができる。（学校は持ち帰りを推奨している。）



○ 第1学年数学科において取り組んだ内容

- ①AIドリルは、各自家庭学習や空き時間に自由に進めてよい。
- ②教科担任は、AIドリルに加え、教科書やワーク等でも宿題を出すなど、臨機応変に対応していく。
- ③生徒のタブレット端末活用については、定期的に指導を行う。

eライブラリの活用内容（教員）

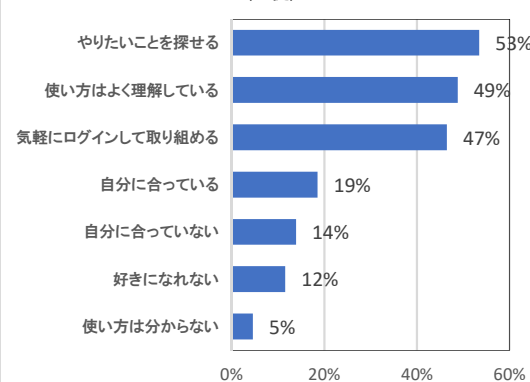


生徒の変容

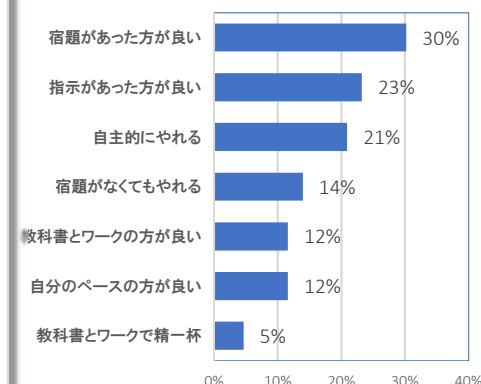
令和6年1月実施の生徒アンケート結果

教師による家庭学習の内容提示では、意欲的に取り組まない生徒が散見されたが、本取組において、生徒が自分のペースで学習することに肯定的な感想をもち、自主的な学習につながり、空き時間などにタブレット端末を活用して学習を進めている様子が見られた。「宿題を出してほしい、与えられた学習を行えばよい」という受動的な意識が生徒にあることから、日常的な指導をより充実させる必要がある。

AIドリルでの家庭学習について（生徒）



今後の数学の家庭学習について（生徒）



旭川市立旭川中学校

全校生徒数：213名 実施学年：全学年（不登校及び不登校傾向生徒）

デバイス : iPad
OS : iPadOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : ミライシード

端末持ち帰りモデル

■ 取組の方法

- **取組のねらい**
不登校及び不登校傾向生徒に対する学びの保障
- **「オンライン支援」取組内容**
 - ・ 端末持ち帰りによるオンラインでの学習支援、生活習慣確立支援
 - ・ 学習アプリ「ミライシード」を活用した学習支援
 - ・ 不登校及び不登校傾向生徒の安全・安心な居場所づくり
- **取組のステップ**
 - step1** 目標設定、環境整備、遠隔による学習・生活支援
 - step2** スペシャルサポートルームにおける学習支援と人間関係づくり
 - step3** 設定した目標の達成



【オンライン支援の様子】

■ 生徒の変容

オンライン支援をきっかけに、スペシャルサポートルームへの登校や学級で授業を受ける生徒が増加。

【成果】

- 不登校生徒が学校とつながる選択肢を増やすことができた。
- 不登校及び不登校傾向生徒の登校日数が増加した。
- 「ミライシード」を活用したことにより、学習支援の内容が充実した。

対象生徒の状況の変化	8月	12月
オンライン参加生徒数	0	6名
ミライシード活用生徒数	0	5名
登校生徒数	6名	11名

東川町立東川中学校

全校生徒数：239名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス : iPad
OS : iPadOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : ロイロノート、Goodnotes

■ 取組の方法

- ① 1人1台端末の持ち帰り（端末導入時から）
- ② ロイロノートを活用した、課題プリントの配付・提出
- ③ デジタルポートレートの活用（まとめ、振り返り、評価資料）
- ④ デジタルノートの活用（アプリ「Goodnotes」）
- ⑤ 欠席した生徒の授業視聴（オンライン配信）
- ⑥ オンラインアンケートの実施（授業の振り返り、学校評価アンケート等）

※ 令和3年度から業務支援ツール「コドモン」を活用した保護者への文書配付を実施

※ 学習eポータルについて、令和6年4月から「Qubena」のA I型教材を導入予定



【端末を活用して学習する様子】

■ 生徒の変容

- 全ての授業において記録、まとめ、発表等で端末を活用しており、常用の学習ツールとしての活用スキルが身に付いてきている。
- 家庭学習について、課題の多くをロイロノートで配信、回収を行っており、1人1台端末の有効性を生徒が実感するとともに、生徒が隙間時間を使って取り組むなど、学習スタイルが変化してきている。

「ICTの活用により、学習への意欲が高まったり、学びが深まったりした」

